

まち

No.24 2025 年 春号

発行日：令和7年3月21日
発行：日本大学理工学部まちづくり工学科教室
☎03-3259-0531(学科事務室)
発行責任者：後藤 浩(教室主任)
編集担当：牟田聡子、栗本賢一
制作：株式会社 ムーンドッグ

巻頭言

まちづくりに求められる「デザイン力」 そのために必要な時間

今年から配布される本学部の広報物では、まち科を含む建設系5学科の総称が「建築・都市・デザイン」系列と示されるようになり、まち科は建築や社会基盤施設などの都市を「デザイン」する学科というイメージが一層強まる。

まち科では、入学して最初に「デザイン」を学ぶ科目に『デザイン基礎』（1年前期）があり、その冒頭で私は、偉人の言葉を借りながら「デザインとは何か」について、入学したばかりの学生に毎年問いかけている。これまで受講してきた学生は記憶にあるだろう。

では、まちづくりににおける「デザイン」とは何か。多くの人は、まちの将来像を具体的な姿や形として描くことを思い浮かべるが、それだけではない。まちの課題を発見し解決に向けた方法論として示すことや、目に見えない人間関係を組み立てることも意味する。つまり、空間を表現する力、論理的に思考する力、多様な人々とのコミュニケーション力など、まちづくりに必要な「デザイン力」のためには多くを身につけなければならない。これについては、まち科のカリキュラムを見てももらえば一目瞭然だが、学部の4年間で満足できる学生は少なく、大学院に進学し6年間で身につけるのが現状のようである。それだけ容易ではないということ。

私は本学部建築学科を卒業し大学院に進学、修了した後は、これまで建築家としていわゆる「デザイン」を仕事にしてきた。まち科に着任してから活動が続け、その経験を活かし、研究室では前述した「デザイン力」が身につくよう学生の育成に励んでいる。例えば、3年次のゼミナールでは、PCスキルの向上を目的にした名刺デザインや、見学した施設をCGや模型で表現する空間表現、先輩の卒論・修論テーマを借りて論理的な思考を試みるゼミ論文を実施し、4年次の卒論や大学院の修論はもとより、学外コンペや実施プロジ

contents

巻頭言	1
特集 まちの見方・楽しみ方〈6〉	2
2024(令和6)年度 修了・卒業生の就職状況	8
2024(令和6)年度 まちづくり工学科研究業績	9
2024(令和6)年度後期 “まち” 行事・イベントカレンダー	12
2024(令和6)年度 まちづくり工学科各賞受賞者	14
教職員・学生の活躍	15

准教授 落合正行



ェクトへの参加も積極的に勧めている。また、これらを先輩と後輩がペアを組んで行うことで、研究室という小さなコミュニティの中でも社会でふるまい方が学べる。他にも、個人の活動を共有するレビュー会や展覧会への観賞ツアーなどを定期的に開催し、研究室内のコミュニケーションを活性化する場合もある。

昨年末、ちょうどこの原稿を執筆中に、研究室の1年間を振り返る「サ

テライトラボ」（写真）が開催された。久しぶりに顔を出してくれたまち科のOBOGや建築学科の後輩からは、こうした一連の研究室活動に対して多くの感想をもらったが、皆が口を揃えて言うのは学生時代の頑張りについて。社会人になってからは目の前のことと戦う日々であり、学生のうちにたくさんのことを吸収しておくべきだと言う。つまり、学生時代にどれだけのことをやり抜くか。今や3年生の12月には就職先が決まる時代、時間が足りなければつくるしかない。学部の4年間で物足りなければ、大学院を含め6年間で計画すればいい。学生時代にこれだけやれば社会に出ても怖いものはない、そう言って卒業・修了してもらいたいし、これを読んで奮い立つ学生が一人でも多くいれば、私は嬉しい。まち科ならではの「デザイン力」を活かし、社会で活躍しようではないか。



毎年12月末に研究室を1日だけ街中に持ち出し、1年間の活動展示や成果発表会など「研究室開き」を行うイベント

まちの見方・楽しみ方⁶

「まち」は、さまざまな要素が折り重なり、多面的な表情を持っています。本特集ではこれまで、「まち」をよく知る学科教員の視点から「まち」をどのように捉え楽しむのかを皆さまにお届けしてきました。本号では、学科教員だけでなく、「まちづくり」の第一線で活躍されている非常勤講師の

先生方、そして本学科で学びを深めてきた大学院生、それぞれの視点から「まち」の魅力を語っていきます。

これまでとはひと味違う、新たな視点で切り取られた「まち」の楽しみ方を知り、あなたも、まだ知らない「まち」の表情に出会ってみませんか？

宮城県女川町

海に見える美しい “復興まちづくり”

宮城県女川町は、東日本大震災時に宮城県内最大の津波被害を受けた地域です。当時の女川町に設置されていた防潮堤は海への眺望を遮っていたことから、津波から逃げ遅れた人がいたそうです。そのため、復興の際、JR女川駅を中心に「すべての家から、海に見えるまちづくり」を実現し、都市景観大賞や土木学会最優秀賞などを受賞しています。一度被災した場所が新たな交流拠点へと一新したまちでは、特別で貴重な経験ができるはずです！ぜひ一度は訪れてみてはいかがでしょうか？



女川駅前のプロムナード（通称：レンガみち）には多彩な小売店や飲食店が並び、楽しく歩くことができます



常松美咲（岡田・田島・栗本研究室）
研究テーマ：わが国における海釣り施設の事業継続要件に関する研究

京都府伊根町

京都の海岸に残る漁村風景“伊根の舟屋”

京都北部の伊根湾の海岸線には伝統的な日本の漁村風景を残す舟屋が並び、日本の中でも特徴的な景観を映し出す。

舟屋とは、昔の漁業で利用した木造船が海水にさらされることを防ぐために建てられた。そのため、木造船のない舟屋の利用価値は現在ないに等しい。しかし、大正時代の木造家屋の残る舟屋の街並みを守るため、現代の建物も既存のまちに一体的に建てられており、努力の結果、伝統的な街並みを維持し

ている。ぜひ船に乗って海へ飛び出し、口を開けた舟屋の一体的な外観と、それを守ってきた地域住民に思いをはせてほしい。



伊根湾の海面に反射する舟屋群



松島萌華（落合研究室）
研究テーマ：まちづくりに貢献する公民館の成立要件について

青春期を迎える大都市・北京の魅力

——新旧が織りなすダイナミックなまちづくり

助教 栗本賢一



私は大学院博士前期課程を修了後、2007年に中国の首都・北京へ渡り、そこで7年間駐在生活を送りました。当時はちょうど翌年に北京オリンピックを控え、中国経済はいわゆる“バブル”の真ただ中にあり、都市や建築はめまぐるしい変化を遂げていました。1920年代のアメリカ、1960年代の日本に続く“高度成長期”を2000年代に経験した中国は、世界規模で見ても驚異的なスピードでモノやヒトが集積する「都市の時代」を体現していたのです。建築家の隈研吾氏が「都市には青春時代がある」と語っていたように、北京はまさに青春期を迎えているかのように活気に満ちており、社会全体に高揚感が漂っていました。

一方で、古都としての北京には悠久の歴史が息づいています。風水の思想や碁盤目状の都市計画に基づく“スーパーグリッド”の上に、超高層ビルが林立する現代的なCBD（中心業務地区）が広がる一方、伝統的な「胡同」と呼ばれる路地には往時の風情が色濃く残っています。これらの胡同は“四合院”（四方を囲む建物と中庭からなる伝統的な中国建築）を基本とする住居形式が特徴で、近年はリノベーションによって店舗やカフェなどが増え、グラウンドレベルでのにぎわいがいっそう醸成されています。例

えば、私の勤務地であった「建外 SOHO」は、本学出身の建築家・山本理顕氏が設計を手がけた大規模複合施設ですが、そこから数駅移動するだけで、人々の生活の匂いが漂う下町のスケール感に浸ることができます。こうした“新旧のコントラスト”や“スケールのギャップ”を肌で感じられるのは、北京を歩くうえでの大きな楽しみでもありました。

また、市の北東部に位置する「798芸術区」は、かつての工場跡地をリノベーションし、ギャラリーやアトリエが集積した現代アートの一大拠点として生まれ変わっています。これらの動きは、「量から質」へと移行し始めた中国のまちづくりを象徴していると感じます。かつてはアイコン的な建築による“差異化”が脚光を浴びましたが、現在では環境面や地域性と調和した建築のあり方が重視され、「まちにとって本当に必要な機能は何か」という問いが改めて投げかけられているのです。

こうした急激な変化の時代に身を置くことで、私は日本とは異なるバブル経済の空気を肌で感じ、都市が躍動する現場に立ち会う貴重な経験を得ました。歴史的な文脈と最先端の変化が同居しながら成長を続ける北京のまちは、世界中から多様な人々やアイデアが集まり、さらに大きな可能性を秘めています。みなさまも機会があれば、過去と未来が交錯する北京を「青春時代のまち」として楽しんでみてはいかがでしょうか。

798 芸術区の
リノベーション空間



北京 CBD エリアの
高層ビル群と「建外 SOHO」



胡同の路地と四合院



浜松町・竹芝エリア

このエリアには複数の劇場があり、文化・芸術のまちが形成されています。また、暗闇や静けさを体験して感覚を楽しむ施設もあり、訪れやすいまちのあり方について多様な感覚を持つ方の意見を反映し協議されます。劇場単体の魅力だけでなく、訪れている間、楽しさが途切れないような施設間の連携に魅力を感じます。施設間の協議・連携は目で見て楽しむ要素とは異なりますが、自分の好きな施設やまちの要素に着目し、周辺の計画や背景を調べることも、まちの楽しみ方のひとつであると思います。



劇場が集結する水辺のエリア



大塚晴希（田中研究室）
研究テーマ：鑑賞の多様性やアクセシブル対応に関する研究



分散型ホテルのレセプション機能を有する「HAGISO」

2つのスケールでみる谷中のまちの魅力

谷中エリアには、既存ストックを活用した施設が数多く点在しています。例えば、ホテルのレセプション機能を持つ「HAGISO」は木造アパートを改修した施設で、2室分を吹き抜け空間に改造し、間接光を取り込む設計が特徴です。さらに、客室やレストランをまちに点在することで「まちなかホテル」を実現し、訪れる人が自然とまちを回遊します。

このように、まち歩きをする際は、個の建築に注目する「狭い視野」とエリア全体を見渡す「広い視野」という、さまざまなスケールで楽しんでいます。



落合はる菜（落合研究室）
研究テーマ：まちなか観光地における観光施設計画に関する研究

大泉学園

大泉学園は、自然と文化の調和を感じられる場所です。自然散歩のおすすめは、大泉学園通りと点在する田畑です。大泉学園通りでは、桜並木など四季折々の風景と練馬大根など新鮮な練馬野菜のお買い物を楽しめます。「アニメのまち大泉学園」を楽しめるのは、大泉学園駅周辺に点在するアニメ制作スタジオ。ゆめりあホールではしばしば開催されるイベントやマーケットでは、地域住民との交流を通じて地域の温かさを感じることができます。



鈴木真悠（仲村研究室）
研究テーマ：大地震発生直後における基礎自治体と地域建設業者の応急復旧対応に関する研究



大泉学園通りの桜
（春には多くの人でにぎわいます）

変わり続ける港区・芝浦

非常勤講師 工藤 誠（「地域・都市経営特論」担当）

港区芝浦地区は、JR 田町駅の南東に広がる運河に囲まれたエリアで、明治の終わりごろの隅田川改良工事による浚渫土砂を使って造成されたと言われている埋め立て地です。私が興味を持ったのは学生時代で、神社やお寺、お祭りなどの歴史的な蓄積を表すものや微地形もない埋め立て地においても、都市空間は愛着の持てる生活の場として馴染んでいくのだろうかという疑問に思ったことがきっかけでした。

芝浦という名前の通り、この地区はもともと港湾機能、物流機能が卓越した空間でしたが、1990年代のいわゆるバブル時代は、当時役目を終えつつあった多くの物流倉庫や雑居ビルがディスコ、バー、レストランなどのにぎわいの場や、音楽スタジオやアートの展示スペースなどに変わり、そのような斬新な空間の使い方が次々と伝染するように広がって若者が集う流行のまちへと変わっていきました。外観はほとんど変わらないにもかかわらず建物の中の機能が大きく変わることで「夜のウォーターフロント」と呼ばれるようになり、地区のイメージを刷新するまでになったことは、まちづくりの良し悪しは別として特異な事象だったと思います。

現在にかけては徐々に、特に高層の住宅化が進んで

いるようで、人の日常的な暮ら

しが少しずつ見られるような地区へと変わりつつあります。30年ほど前にはあまり存在に気が付かなかった（もしかしたら実際になかったのかもしれませんが）幼稚園や保育園、公園・緑地が存在感を増しています。空間スケールの「単位」に着目すると、高層住宅の大きなスケールの空間の足元や合間に、より粒が小さいヒューマンスケールの商店や飲食店があって、意図的なのか結果的なのかわかりませんが、うまく馴染みが進んでいるように見えます。

いくつかの時代を経て、新しい高層住宅と開放的で静かな雰囲気を保つ運河、また建物の間を縫うような曲線を描いて早朝から深夜まで頻繁に抜けていくモノレールが、新旧、大小が入り交じった独特な都市空間を成しています。これを見ると、まちづくりには必ずしもコントロールできない部分が多くあり、それらも受け入れつつ変わっていくのがリアルだと感じさせられます。



日曜日の朝の公園：
親子連れが遊ぶ普通の風景



30年ほど前は製糖工場があった
場所に今は高層住宅が立地



目に映る姿がすべてではない

関東大震災発生後、食糧配給に次いで重要な避難民の収容について、九段坂の急坂により火災を免れた靖国神社に約5万人が避難しました。帝都復興計画では坂が大幅に削られ緩やかな勾配になり、九段坂は大正通りとして主要な幹線道路の一部となりました。

目に映る空間に着目することに加え、なぜ今の姿になったのかを踏まえると、まちに対する捉え方が変わってきます。そして過去をたどる視点は今後のまちのあり方、すなわち未来を見据えることにもつながっていくと感じます。

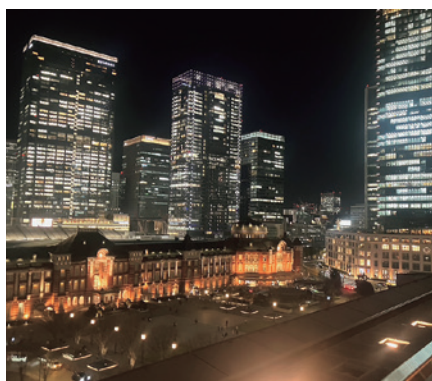


九段坂公園（都内屈指の眺望広場）

石塚菜々子（阿部研究室）

研究テーマ：鎌倉市まちづくり条例に基づく自主まちづくり計画に関する研究

法と計画が織りなす都市美



大規模開発にて規制緩和を活用しつつ歴史的建築物や景観を保存

私のまちの楽しみ方は、「都市計画」と「建築基準法」の観点から見ることです。まちの建築物は建築基準法による高さ制限・斜線制限や防火地域の指定が建物の形状、素材やデザインに影響を与えています。一方、都市計画では用途地域ごとに機能が分けられ、道路や公園の配置が都市の動線や空間の快適さを形作っています。例えば高層ビルが立ち並ぶ地域と住宅街の調和、歩行者専用空間の設計意図など、法と計画の視点で街を読み解くことで、日常の都市風景に新たな発見が生まれます。



香取 潤（山崎研究室）

研究テーマ：都市再生特別地区の環境貢献に関する研究—環境指標と取り組み内容に着目して—

まちを再発見

市川真間駅から約10分の真間山弘法寺は、江戸時代には紅葉、現在は桜の名所として知られています。大学進学後、千葉県市川市に越してきた私は、散歩中に猫に導かれ訪れました。この寺は、行基菩薩が「真間の手児奈」の霊を供養するため創建したとされ、万葉集には手児奈への思いを詠んだ歌も残されています。かつて海に囲まれたこの地では「継橋」を渡る必要がありました。地元を散策しながら、至る所に歴史文化を再発見し、「地域らしさ」を実感しました。まずは猫に導かれながら、まちの再発見をしてみたいはいかがでしょうか。



真間山弘法寺の参道



藤澤綾香（阿部研究室）

研究テーマ：伝統芸能の継承プロセスが地域コミュニティに及ぼす影響に関する研究

場の空気感

非常勤講師 富岡裕一郎（「都市・地域デザイン演習」担当）

私はゼネコン開発部門のプランナーとしてさまざまな開発に携わってきましたが、その経験から、まちづくりや都市開発に際して最も大事にしていることは、計画地やその周辺地域の“場の空気感”を読み解いた上で、計画・デザインすることです。ここで言う“場の空気感”とは、私なりの解釈では「その地域の景観、歴史、文化、風土、気候などが自然に醸し出すコンテキスト（文脈）」といったところです。計画地に何度も足を運び、自らの五感を研ぎ澄ませて“場の空気感”を観察することで、新たな気づきやインスピレーションを得ることができます。

一言に“場の空気感”といってもイメージがしにくいと思いますので、例をあげて説明をしたいと思います。私は日本各地の伝統的建築物群保存地区（伝建地区）を訪れる機会が多いのですが、いくつかの伝建地区では“場の空気感”に違和感を抱く時があります。確かに建物は適切に保存・補修等がなされ、歴史的な街並みが保存されているのですが、その場に息づく活気や生活感がどうしても感じられないのです。一方で、心地よい“場の空気感”が感じられる時もあります。例えば、名古屋市の有松地区では伝統名産の「有松絞り」を軸にまちづくりがされており、現代

的なデザインの織物やお洒落な店舗が散見されるなど、古くからの街並みを継承しながら、新しい文化や産業の息吹を感じることができます。

また、2024年の3月初旬にデンマーク、オランダ、オーストリアを訪れたのですが、まだ東京の真冬並みに寒い気候にも関わらず、街のそこかしこにオープンテラス席があり、多くの人々が食事や会話を楽しんでいる光景がありました。一見、マネをしたくなる“場の空気感”があったわけですが、ただ、これは欧州ならではの文化や価値観、身体的特徴などに根付くものであり、仮に東京でマネをしようと思っても、欧州と同様の“場の空気感”は生まれにくいでしょう。

既におわかりかと思いますが、“場の空気感”は建物や街並みなどの「ハード」面のみではなく、歴史や文化、風土、気候などの「ソフト」面も含めて醸成されるものであり、ハード・ソフトを一体で読み解くためには、実際に現地に赴き、自らの五感で感じる以外に方法はありません。多感で頭が柔らかい学生の皆さんには、今のうちにたくさんの方のまちや建築をみてまわり、自分なりの“場の空気感”の読み解き方を身に付けてほしいと思います。きっと近い将来、役に立ちますよ！



歴史的景観が保存された街並み（有松）



古い家屋を改修した新しい店舗（有松）

まだ寒さが残る季節のオープンテラス（ロッテルダム）



今年度の進路決定状況（2025年3月3日現在）は表1の通りです。今年度の就職活動スケジュールは、昨年度よりさらに早まった傾向が拭えませんでした。また、これまでは就業体験の無いプログラムでも「インターンシップ」の名称が使用されていましたが、文部科学省・厚生労働省・経済産業省の合意によって、学生のキャリア形成支援に係る取り組みが類型化されました。内容に沿ってプログラムの名称が「オープン・カンパニー」「インターンシップ」「仕事体験」と表記されるようになり、学生にとってプログラムの位置づけがわかりやすくなってきたようです。開催方式については、そのようなキャリア支援プログラムの他、合同または企業個別のセミナー、説明会、筆記試験、面接試験など、各企業や団体の方針に沿って対面形式とオンライン形式が使い分けられていたようです。そのような状況下において、まちづくり工学専攻・学科の学生の進路決定率は、今年度も概ね堅調に推移

表1 就職・進学状況（2025年3月3日現在）

	学部			大学院			合計
	男子	女子	計	男子	女子	計	
在籍者数	87人	31人	118人	4人	7人	11人	129人
就職・進学希望者数	75人	26人	101人	3人	7人	10人	111人
就職者数	67人	23人	90人	3人	7人	10人	100人
進学者数	7人	2人	9人	0人	0人	0人	9人
決定率*	98.7%	96.2%	98.0%	100%	100%	100%	98.2%

※決定率＝（就職者数＋進学者数）／就職・進学希望者数

してきました。

図1に就職先の業種別割合（進学含む）、表2に就職・進学先一覧、図2にこれまでの修了・卒業生の就職先業種別割合（進学含む）を示します。国家公務員総合職では、昨年度の2名（国土

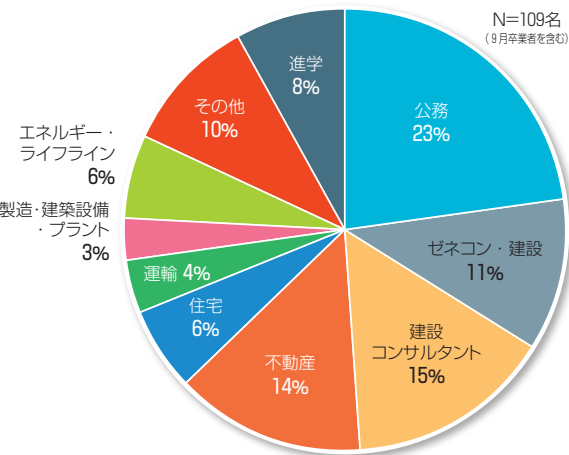


図1 業種別割合

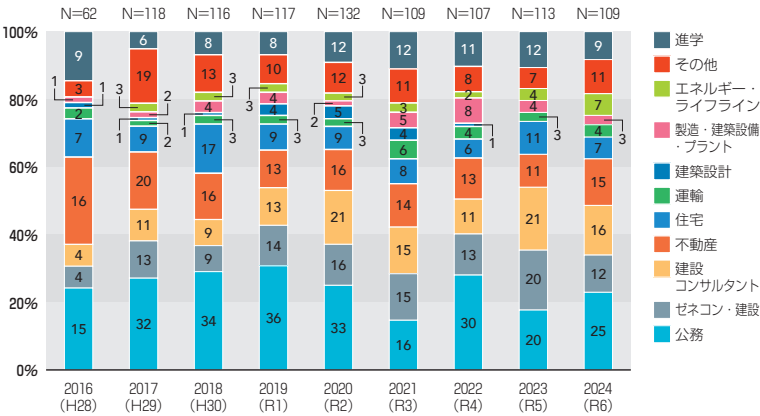


図2 まちづくり工学専攻修了生・まちづくり工学科卒業生の就職先業種別割合（進路未決定者を除く。2024(令和6)年度は2025年3月3日現在）

表2 就職・進学先一覧

業種	企業・団体名（〔 〕内は職種と人数）	人数
公務	経済産業省特許庁〔技術1〕、埼玉県庁〔土木1〕、千葉県庁〔土木2〕、東京都庁〔土木3、建築1〕、福島県庁〔土木1〕、警視庁〔行政〔建築〕1〕、さいたま市役所〔土木1〕、千葉市役所〔土木1、建築1〕、横浜市役所〔土木1〕、宇都宮市役所〔建築1〕、佐野市役所〔土木1〕、沼津市役所〔土木2〕、船橋市役所〔土木2〕、松本市役所〔建築1〕、新宿区役所〔建築1〕、杉並区役所〔土木1〕、中央区役所〔土木1〕、文京区役所〔建築1〕	25人
ゼネコン・建設	鹿島建設〔都市開発1、設備施工1〕、清水建設〔建築施工1、都市開発1〕、大成建設〔建築施工1〕、竹中工務店〔建築施工1〕、熊谷組〔建築施工1〕、東鉄工業〔土木施工1〕、戸田建設〔建築施工1〕、長谷工コーポレーション〔建築施工1〕、横河ブリッジ〔土木施工1〕、大真建設〔1〕	12人
建設コンサルタント	オオバ〔1〕、オリジナル設計〔2〕、国際航業〔1〕、タカハ都市科学研究所〔1〕、中央復建コンサルタンツ〔1〕、東京建設コンサルタント〔1〕、日本工営都市空間〔3〕、UR リンケージ〔1〕、日本港湾コンサルタント〔1〕、日本都市技術〔1〕、八州〔1〕、三井共同建設コンサルタント〔2〕	16人
不動産	清水総合開発〔1〕、住商アーバン開発〔1〕、生和コーポレーション〔1〕、大京〔2〕、東急コミュニティー〔1〕、大成有楽不動産〔1〕、トーセイ〔1〕、東電不動産〔1〕、長谷工不動産〔1〕、平和不動産〔1〕、三菱地所プロパティマネジメント〔1〕、UR コミュニティ〔1〕 他	15人
住宅	大和ハウス工業〔都市開発1〕、積水ハウス〔設計1、技術1〕、茨城セキスイハイム〔1〕、東京セキスイハイム〔建築施工1、営業1〕、ボラスグループ〔1〕	7人
運輸	東日本旅客鉄道〔土木1〕、九州旅客鉄道〔建築1〕、中日本高速道路〔土木1〕、成田国際空港〔建築1〕	4人
製造・建築設備・プラント	高島屋スペースクリエイツ〔設備1〕、日軽エンジニアリング〔土木設計1〕、ミラタップ〔1〕	3人
インフラ整備・エネルギー	東京都下水道サービス〔土木1〕、東電タウンプランニング〔5〕、東洋エンジニアリング〔1〕	7人
その他	アビリティーズ・ケアネット〔1〕、西武造園〔1〕、戸田芳樹風景計画〔1〕、文化財建造物保存技術協会〔1〕 他	9人
進学	日本大学大学院理工学研究科博士前期課程まちづくり工学専攻〔8〕、千葉大学大学院融合理工学府地球環境科学専攻〔1〕	9人

交通省大臣官房、国土交通省住宅局）に続いて、今年度も1名が採用されました（経済産業省特許庁）。ゼネコンの施工部門以外では、都市開発部門に2名、設備設計部門に1名の就職が決定しました。

これまでのまちづくり工学専攻修了生・まちづくり工学科卒業

生の進路を振り返りますと、公務員・運輸・エネルギーといった発注者側の業界へ3割前後、ゼネコン・住宅業界へ2割前後、建設コンサルタント・建築設計へ2割前後、不動産へ1割5分前後で推移しています。

2024(令和6)年度 まちづくり工学科研究業績

審査付き論文

牟田聡子・八藤後猛：妊娠期から乳幼児期の環境変化に着目した整備に関する研究（その3）妊婦の身体的・生理的变化とADL並びに住環境による住宅内事故の多元的分析，日本建築学会計画系論文集，89巻，821号，2024.7.1.

久保凜一郎・岡田智秀・落合正行：東京都エリアにおける遊休倉庫を活用した「エリアリノベーション」の促進方策に関する研究—東京都内5地区の倉庫街を対象として—，日本建築学会計画系論文集，89巻，821号，pp.1283-1292，2024.7.1.

松島萌華・落合正行：長期存続する公民館の施設空間に関する研究—まちづくりに貢献する「優良公民館」を通して—，日本建築学会地域施設計画研究シンポジウム発表論文集，42巻，pp.341-348，2024.7.

山崎晋：大学キャンパスにおける屋内施設と屋外広場の地域開放に関する研究—関東圏内のキャンパスを対象として—，日本建築学会地域施設計画研究，第42号，pp.391-396，2024.7.

富田隆太・八藤後猛：遮音性に関する実態調査と遮音性と安全性に配慮した畳床の提案，日本大学理工学部理工学研究所研究ジャーナル，2024巻，2024.8.1.

Takaki Nishiyama, Yuri Sato, Eiji Makabe and Koichi Amano: Basic Research on the Activeness of Resort Behavior: Comparing Ocean and Mountain Resort Areas in Japan and Overseas, Asian-Pacific Planning Societies 2024, p.461, 2024.8.23.

戸塚夏萌・後藤浩・石川眞・石野和男：都市低地帯に立地する工場群の緑地を利用した洪水被害の軽減方法の提案，土木学会論文集，第80巻，第27号（地球環境），2025.9.25.

山崎晋：コロナ禍及びコロナ以前における幕張ベイタウンの中庭の利用実態と居住者評価の一考察，日本建築学会技術報告集，第76号，pp.1458-1463，2024.10.20.

西山孝樹・藤田龍之・天野光一：『徳川実紀』にみる江戸時代前中期の江戸府内を主たる対象とした社会基盤整備に関する法制度と行政政策—地方政府としての江戸幕府—，土木学会論文集，Vol.80，Issue.10，24-00028，2024.10.20.

三浦靖貴・岡田智秀・田島洋輔：千葉県房総半島の沿岸道路を移動する自動車の車窓からみた海景の見え方と形成要因に関する研究，土木学会論文集B3（海洋開発），No.80（18），2024.10.31.

藤山遼太・岡田智秀・田島洋輔：静岡県遠州灘地域にみる津波避難施設「命山」の土地利用規制と導入時の整備方策に関する研究，土木学会論文集B3（海洋開発），No.80（18），2024.10.31.

戸塚夏萌・後藤浩・前野賀彦：中小工場が集積する地域における都市計画手法を用いた洪水対策の提案，土木学会論文集，第80巻，第24号（安全問題），pp.1-10，2024.12.2.

西山孝樹・榊原貴太・天野光一：「川口ハイウェイオアシス」および隣接する都市公園における休日の利用実態に関する基礎的研究，高速道路と自動車，Vol.68，No.2，pp.13-20，2025.2.1.

後藤浩・清水利浩・奥田聡：飛砂による海浜砂陸側への流出阻止に適切な堆砂垣配置形状：現地データの評価と配置規模決定手順の試案，砂防学会誌論文集，第77巻，第6号（通巻377号），2025.3.15.

口頭発表（審査なし）

阿部貴弘・中川恵・松野祐太・田中滋夫・伊藤毅・篠原修：濠及び掘割に着目した近世城下町の類型化の試み，土木学会土木史研究講演集，Vol.44，pp.65-68，2024.6.22.

西山孝樹・藤田龍之・天野光一：大畑才蔵に関する一次史料の再整理とそのなかで示された評価，土木学会第44回土木史研究発表会，2024.6.22-23.

牟田聡子・富田隆太・八藤後猛：子どもと中高年を対象として床材に注目した住宅内転倒事故に関する研究 その1：住宅内転

倒事故と床材との関係に関する基礎的分析，日本建築学会学術講演梗概集[建築計画]，2024.7.1.

八藤後猛・富田隆太・牟田聡子：子どもと中高年を対象として床材に注目した住宅内転倒事故に関する研究 その2：住宅内転倒事故において医療機関にかかった事例における転倒場所のフォトサーベイ，日本建築学会学術講演梗概集[建築計画]，2024.7.1.

熊谷渚・牟田聡子・八藤後猛：東京23区における迷惑行為となる道路遊びに関する研究，日本建築学会学術講演梗概集[建築計画]，2024.7.1.

吉川智貴・牟田聡子・八藤後猛：地域学校協働活動における子どもの地域愛着に関する研究，日本建築学会学術講演梗概集[建築計画]，2024.7.1.

長澤大次郎・後藤浩・神田拓海：防潮堤の陸側の除去に向けた方法論の一提案（9-2），第36回日本沿岸域学会研究討論会，2024.7.20.

松島萌華・落合正行・富安亮輔：近畿地方における地域分散型図書館の整備実態に関する研究，2024年度日本建築学会大会（関東）学術講演会，2024.8.28.

大塚晴希・田中賢：劇場・博物館・美術館のバリアフリーと芸術鑑賞の多様性についての研究，2024年度日本建築学会大会（関東）学術講演会，2024.8.29.

香取潤・山崎晋：都市再生特別地区の環境貢献に関する研究—CASBEEと取り組み内容に着目して—，2024年度日本建築学会大会（関東）学術講演会，2024.8.29.

戸塚夏萌・後藤浩・前野賀彦：町工場が集積する地域が抱える問題の解決を考慮した水害抑制対策の提案（IV-88），令和6年度土木学会全国大会第79回年次学術講演会，2024.9.5.

長澤大次郎・後藤浩・田中宏和：外郭防潮堤への透水性二重護岸の適用と利用策の検討（IV-89），令和6年度土木学会全国大会第79回年次学術講演会，2024.9.5.

仲村成貴・新井寿昭：曲げ載荷を受ける既製コンクリート杭の剛性と振動特性の変化，令和6年度土木学会全国大会第79回年次学術講演会，2024.9.5.

西山孝樹・天野光一・押田佳子：フィードバック(振り返り)および担当教員間の討議を取り入れた対面授業の実施とその評価，令和6年度土木学会全国大会第79回年次学術講演会，2024.9.5-6.

後藤朋子・後藤幹尚・多和田俊介・浅野和香奈・後藤浩・岩波光保・千々和伸浩・津野和宏：インフラの区民理解につながる情報発信・広報活動について (CS7-05)，令和6年度土木学会全国大会第79回年次学術講演会，2024.9.6.

後藤浩・石野和男：令和5年7月九州北部における集中豪雨で氾濫した河川での波状水面の形成に関する考察 (II-124)，令和6年度土木学会全国大会第79回年次学術講演会，2024.9.6.

鈴木真悠・仲村成貴：令和6年能登半島地震における地域建設業者の被災状況調査—本社所在地で推定される震度—，令和6年度土木学会全国大会第79回年次学術講演会，2024.9.6.

小野寺亮太・岡田智秀・田島洋輔・尾崎混生：被災地復興事業にみるスマートコミュニティの事業要件に関する研究—東日本大震災復興5市における事業計画の実現状況と継続状況に着目して—，令和6年度土木学会全国大会第79回年次学術講演会，2024.9.6-7.

板橋将気・押田佳子・石田愛奈：南関東圏内の商業施設における犬の受入体制の実態に関する研究—アウトレットに着目して—，日本環境共生学会第27回(2024年度)学術大会，2024.9.15.

嶋田寧々・押田佳子・石田愛奈：首都圏の鉄道会社におけるペットの受け入れ実態に関する研究，日本環境共生学会第27回(2024年度)学術大会，2024.9.15.

石田愛奈・押田佳子：学校防災教育における被災体験談の活用実態に関する研究—被災地発行の防災教育副読本に着目して—，日本環境共生学会第27回(2024年度)学術大会，2024.9.15.

洞口翼・押田佳子・石田愛奈：わが国におけるペット同行避難の取組み実態に関する基礎的研究，日本環境共生学会第27回(2024年度)学術大会，2024.9.15.

石井麻翔・押田佳子・安田有希：フットゴルフ参入ゴルフ場における参入のプロセスと運営実態に関する研究，2024年度日本造園学会関東支部大会，2024.11.9.

安田有希・押田佳子・照井進介：無料開放が六義園の管理運営に及ぼす影響に関する研究，2024年度日本造園学会関東支部大会，2024.11.9.

屋代大樹・押田佳子・安田有希：公共管理下にある大名庭園の継承状況と運営実態の関係性に関する研究，2024年度日本造園学会関東支部大会，2024.11.9.

川又美桜・押田佳子：観光地域づくり法人による復興まちづくりの実態に関する研究—かまいしDMCに着目して—，2024年度日本造園学会関東支部大会，2024.11.9.

加藤樹・押田佳子：東京都23区を発地とする鉄道車両への自転車持ち込みに関する基礎的研究，2024年度日本造園学会関東支部大会，2024.11.9.

押田佳子・本間義弘・安田有希：駒込「大和郷」にみる宅地変容に関する研究，2024年度日本造園学会関東支部大会，2024.11.9.

池田優太・山崎晋：団地建替えにおける創出用地の空間活用と再編手法に関する研究，2024年度日本造園学会関東支部大会，2024.11.9.

昼間駿一郎・山崎晋：街区再編まちづくり制度における再生方針と地区計画に関する研究，2024年度日本造園学会関東支部大会，2024.11.9.

大平華月・山崎晋：東京都における都市再生特別地区のバリアフリー貢献に関する研究—近接駅までのバリアフリー接続に着目して—，2024年度日本造園学会関東支部大会，2024.11.9.

熊坂野乃葉・山崎晋：都市再生特別地区における防災分野の公共貢献と周辺環境に関する研究—渋谷区の事例を参考にして—，2024年度日本造園学会関東支部大会，2024.11.9.

吉川柊・山崎晋：都市再生特別地区における広場状空地の活用提案に関する研究—ソフト分野の公共貢献との連動に着目して—，2024年度日本造園学会関東支部大会，2024.11.9.

五十嵐弘大・山崎晋：全国の私立大学キャンパス撤退後の土地活用の実態と課題に関する研究，2024年度日本造園学会関東支部大会，2024.11.9.

赤松沙耶・山崎晋：キャンパスの一般開放エリアと関係者向けエリアとの空間接続とセキュリティに関する研究，2024年度日本造園学会関東支部大会，2024.11.9.

小池凜・山崎晋：サッカースタジアムの空

間構成と活用のあり方に関する研究—イベント内容・付設施設に着目して—，2024年度日本造園学会関東支部大会，2024.11.9.

田口奈緒子・山崎晋：「東京のしゃれた街並みづくり推進条例」登録団体における公開空地の整備特性に関する研究—公開空地と周辺空間との連続性に着目して—，2024年度日本造園学会関東支部大会，2024.11.9.

開智也・池田晃基・萩原拓輝・濱松里紗・室谷拓実・山崎晋：「東京のしゃれた街並みづくり推進条例まちづくり団体登録制度」における公開空地の活用実態—複数の建物を登録している団体に着目して—，2024年度日本造園学会関東支部大会，2024.11.9.

小池惟瑳・大久保知哉・栗田実咲・酒井理帆・松本奈々・山崎晋：都市再生特別地区における地上広場の空間特性に関する研究，2024年度日本造園学会関東支部大会，2024.11.9.

樋口伊吹・岡田智秀・田島洋輔：地方小都市におけるウォーターフロント開発を中心としたみなとまちづくりに関する研究—釧路フィッシャーマンズワープの事業経緯と空間分布に着目して—，第70回土木学会計画学研究発表会・秋大会(企画提案型)，2024.11.15-17.

鈴木杏子・阿部貴弘：社会貢献活動を通して見た社会インフラとしての寺院の役割に関する研究，令和6年度(第68回)日本大学理工学部学術講演会，2024.12.3.

青木健・阿部貴弘：太陽光発電設備に関わる行政による景観マネジメント手法の実態—静岡県内の取組みを事例として—，令和6年度(第68回)日本大学理工学部学術講演会，2024.12.3.

境野哲美・村井佑希恵・阿部貴弘：隅田川の防潮堤及びテラス護岸の景観整備実態，令和6年度(第68回)日本大学理工学部学術講演会，2024.12.3.

戸塚夏萌・後藤浩・長澤次次郎：高波に有効な透水性二重護岸の平常時の活用法に関する検討 (F2-27)，令和6年度(第68回)日本大学理工学部学術講演会，2024.12.3.

宇津茉莉亜・田中賢：宿泊施設と食事のバリアフリーの関係性について—ミシュランキー授与の宿泊施設に注目して—，令和6年度(第68回)日本大学理工学部学術講演会，2024.12.3.

大塚晴希・田中賢：旭山動物園におけるバリアフリー対応に関する研究，令和6年度(第68回)理工学部学術講演会，2024.12.3.

鈴木彩加・田中賢：東京都内の劇場・ホール集積エリアの特性に関する研究—渋谷・下北沢・池袋を対象として—, 令和6年度(第68回)日本大学理工学部学術講演会, 2024.12.3.

内山寛太：鉄道高架下利用に関する研究：JR中央線・小田急線・東急東横線・京王線による高架下利用の違い, 令和6年度(第68回)日本大学理工学部学術講演会, 2024.12.3.

山下博之・仲村成貴・石坂哲宏・井谷修・宮脇健：[特別セッション(日本大学特別研究と災害ソサイエティ(NUDS)の活動)]我孫子市の住民への水災害の懸念に関するアンケート調査の概要と課題, 令和6年度(第68回)日本大学理工学部学術講演会, 2024.12.3.

仲村成貴・井谷修・山下博之・石坂哲宏・宮脇健：[特別セッション(日本大学特別研究と災害ソサイエティ(NUDS)の活動)]我孫子市でのアンケート調査からみる地域住民の防災意識の傾向について, 令和6年度(第68回)日本大学理工学部学術講演会, 2024.12.3.

伊藤大翔・仲村成貴・新井寿昭：光学式モーションキャプチャを用いた構造試験体の変位計測への試み, 令和6年度(第68回)日本大学理工学部学術講演会, 2024.12.3.

石橋柊人・鈴木真悠・仲村成貴：令和6年能登半島地震の被害報告から推測される基礎自治体の応急復旧に対する環境, 令和6年度(第68回)日本大学理工学部学術講演会, 2024.12.3.

上杉桃子・仲村成貴：埼玉県内の市町村が管理する小規模道路橋の耐震補強に関する調査—全国道路施設データベースを活用して—, 令和6年度(第68回)日本大学理工学部学術講演会, 2024.12.3.

落合はる菜・落合正行：まちなか観光地における観光施設計画に関する研究—歴史的資源を活用した観光まちづくり10事例の観光施設の立地構成に着目して—, 令和6年度(第68回)日本大学理工学部学術講演会, 2024.12.3.

杉本知優・落合正行：わが国の「生活観光」の取組実態に関する研究—生活観光に取り組む9地域の取組主体と構成施設に着目して—, 令和6年度(第68回)日本大学理工学部学術講演会, 2024.12.3.

青野かれん・落合正行：地域活性化に寄与する集合住宅の活用方策に関する研究—集合住宅の種類ごとにみるストック活用の現状と特徴—, 令和6年度(第68回)日本大学理工学部学術講演会, 2024.12.3.

渡邊玲王・落合正行・松島萌華：まちづくりボードゲーム「まちビルド」の教育的効果に関する研究—東京都文京区立S小学校での体験会を通して—, 令和6年度(第68回)日本大学理工学部学術講演会, 2024.12.3.

皆瀬友哉・押田佳子：内国勧業博覧会にみる上野恩賜公園の空間変容に関する研究, 令和6年度(第68回)日本大学理工学部学術講演会, 2024.12.3.

石田愛奈・押田佳子：長野県軽井沢町における犬同伴型ペットツーリズムに関する研究—犬同伴可施設における犬の受入と動線の実態に着目して—, 令和6年度(第68回)日本大学理工学部学術講演会, 2024.12.3.

川島永匡・天野光一・西山孝樹：市町村合併にみる地域の祭り存続に関する基礎的研究—千葉県山武市を対象として—, 令和6年度(第68回)日本大学理工学部学術講演会, 2024.12.3.

西山孝樹：[特別セッション(学術賞受賞記念講演)]『徳川実紀』にみる一連の社会基盤施設整備に関する研究, 令和6年度(第68回)日本大学理工学部学術講演会, 2024.12.3.

吉川柊・山崎晋：都市開発における屋外公開空地等の提案実態に関する研究—東京都の都市再生特別地区を事例にして—, 令和6年度(第68回)日本大学理工学部学術講演会, 2024.12.3.

田久保雄平・岡田智秀・田島洋輔・樋口伊吹・三觜悠人：地方都市におけるウォーターフロント開発を中心としたみなとまちづくりに関する研究—(その3)福岡県福岡市における「マリゾン」の事業経緯に着目して—, 令和6年度(第68回)日本大学理工学部学術講演会, 2024.12.3.

阿部湧太・岡田智秀・田島洋輔・田中裕樹：地方小都市における調整池のグリーンインフラ化の実現可能性に関する研究—埼玉県羽生市における調整池の整備実態に着目して—, 令和6年度(第68回)日本大学理工学部学術講演会, 2024.12.3.

小松柚輝・岡田智秀・田島洋輔・小野寺亮太：中山間地域における脱炭素循環型地域づくりに関する研究(その2)長野県長野市“いいづなお山の発電所”の事業経緯に着目して—, 令和6年度(第68回)日本大学理工学部学術講演会, 2024.12.3.

廣木夏葵・眞野匡生・仲村成貴：新旧地形図と常時微動記録に基づく造成地の土地改変状況の推定, 第52回土木学会関東支部技術研究発表会, 2025.3.10.

伊藤大翔・仲村成貴・新井寿昭：光学式モ

ーションキャプチャを用いた静的および動の実験における構造試験体の微小変位計測, 第52回土木学会関東支部技術研究発表会, 2025.3.11.

上杉桃子・仲村成貴：道路橋耐震補強の進捗状況が地域住民の避難に及ぼす影響—埼玉県内の市町村が管理する小規模道路橋を対象として—, 第52回土木学会関東支部技術研究発表会, 2025.3.11.

眞野匡生・廣木夏葵・仲村成貴：オープンデータとフリーアプリケーションを活用した新旧地形と建物の3Dモデル作成とVR可視化システム構築に関する基礎的検討, 第52回土木学会関東支部技術研究発表会, 2025.3.11.

田端祐紀・仲村成貴：避難施設周辺に位置する電柱と避難経路に関する基礎的分析, 第52回土木学会関東支部技術研究発表会, 2025.3.11.

ポスター発表

戸塚夏萌・後藤浩・石川眞：工場緑地を利用した雨水の下水管渠への流入を緩和する小規模遊水地の設置の提案(P-12), 第61回下水道研究発表会, 2024.7.31.

廣木夏葵・眞野匡生・仲村成貴：新旧地形図を用いた日本大学理工学部船橋キャンパスの土地改変履歴の推定, 令和6年度(第68回)日本大学理工学部学術講演会, 2024.12.3.

眞野匡生・廣木夏葵・仲村成貴：VR技術を活用した新旧地形を疑似体験できる3Dモデル作成に関する基礎的検討, 令和6年度(第68回)日本大学理工学部学術講演会, 2024.12.3.

時得泰希・押田佳子：東京都町田市におけるFC町田ゼルビアホームタウンとしてのまちづくりに関する研究, 令和6年度(第68回)日本大学理工学部学術講演会, 2024.12.3.

学会誌報告(査読なし)

石田愛奈・押田佳子・佐倉涼哉・加藤颯人：わが国の学校防災教育における被災体験談の活用実態に関する研究, 都市計画報告集, 23巻, 3号, 2024.12.9.

研究業績につきましては日本学術会議協力学術研究団体の所属機関における論文および発表、理工学部及び工学部学術講演会での発表を掲載しております。ご了承ください。

2024(令和6)年度後期 “まち” 行事・イベントカレンダー

10/12(土) 13(土) 第2回駿河台桜理祭

場所：タワー・スコラ（7階 S711スタジオ）

1年生の建築デザイン演習の成果である模型を展示しました。



10/12(土) 13(土) お茶の水 アートピクニック

場所：お茶の水茗溪通り、お茶の水仲通り、新お茶の水ビルディング、瀬川ビルディング周辺のビル公開空地

10/26(土) 11/6(水) 7(木) 2年生オリエンテーション（まちづくり現地見学会）

まちづくり工学科の教員が独自にプランを作成した「まち歩きコース」を、学生が希望のコースを選択して参加します。



阿部貴弘 ●『五感で楽しむ秋の神楽坂まち歩き～徹底解説！ 神楽坂界限の新旧まちづくりプロジェクト～』



天野光一 ●『東京の近代土木遺産を訪ねる』



岡田智秀 ●『東京ウォーターフロントの見方・楽しみ方・語り方』



押田佳子 ●『江戸時代から続く一大観光地「武家の古都・鎌倉」を巡る』



落合正行 ●『谷根千エリアでリノベーション建築巡り』



栗本賢一 ●『百年の杜が織りなす都市景観—原宿・表参道の都市・建築・ランドスケープ・インテリアデザイン探訪—』



後藤 浩 ●『臨海副都心と東京港～「埋立地」にできたまちの現状と「海外からの輸入品の99.6%は港から」を体感しよう～』



田島洋輔 ●『川面からのまち巡り—環境・防災の視点から江戸・東京を探索する—』



田中 賢 ●『上野文化の杜・まちでの多様性を学ぶ～博物館・美術館でのユニバーサルデザインは、まちづくりへの応用が効く～』



仲村成貴 ●『小江戸川越まちあるき「名所＋α巡り」』



西山孝樹 ●『通り過ぎる場所から滞在する場所へ。変わりゆく日本の空の玄関口、成田空港周辺を巡る』



牟田聡子 ●『空港のユニバーサルデザイン探訪：成田空港のUDへの取組みと空港のバックヤード見学』



八藤後 猛 ●『あなたの知らないディープなまち 秋葉原の歴史と文化探訪～青果市場から電気街、そしてサブカルチャーの殿堂へ』



山崎 晋 ●『横浜みなとみらいエリア散策～横浜開港から今までのまちの変遷と都市計画手法を学ぶ～』



依田光正 ●『世界標準のユニバーサルデザイン設備』

11/3 日 4月 第10回桜理祭

場所：船橋キャンパス

11/3 日 ホームカミングデー

場所：船橋キャンパス（パスカルホール）

各学科に教員が分かれ、訪れた卒業生との親睦を深めました。

11/3 日 船橋キャンパスウォッチング

場所：船橋キャンパス

入試を控えた高校3年生だけでなく、高校1、2年の生徒さんからも、本学科の学びに関する質問や相談をたくさんいただきました。

12/3 火 令和6年度（第68回） 理工学部学術講演会

今年も恒例の学術講演会が開催されました。まちづくり工学科からは、以下の学生が優秀発表賞を受賞しました。

氏名	研究室名	発表題目
伊藤 大翔 (4年)	仲村 研究室	光学式モーションキャプチャを用いた構造試験体の変位計測への試み
渡邊 玲王 (4年)	落合 研究室	まちづくりボードゲーム「まちビルド」の教育的効果に関する研究 ー東京都文京区立S小学校での体験会を通してー
落合 はる菜 (修士1年)	落合 研究室	まちなか観光地における観光施設計画に関する研究 ー歴史的資源を活用した観光まちづくり10事例の観光施設の立地構成に着目してー
戸塚 夏萌 (修士2年)	後藤 研究室	高波に有効な透水性二重護岸の平常時の活用法に関する検討

12/7 土 まちづくり工学専攻博士前期課程 第2回修士論文中間審査会

場所：タワー・スコラ S204教室

博士前期課程2年生9人が発表しました。



12/14 土 日本大学習志野高等学校 CST コース研究成果発表会

場所：日本大学習志野高等学校（1階視聴覚教室）

10/21 月 - 1/20 月 令和6年度 企業セミナー

学部3年生、修士1年生を主とした全学年を対象として、全面対面式で今年も下記企業に参加いただきました。

2024年10月21日（月）

株式会社大林組

2024年10月28日（月）

株式会社竹中工務店／アビリティーズ・ケアネット株式会社／
首都高速道路株式会社／株式会社オリエンタルコンサルタンツ

2024年11月11日（月）

株式会社大京／東日本旅客鉄道株式会社（JR 東日本）／パシ
フィックコンサルタンツ株式会社／株式会社朝日工業社

2024年11月18日（月）

日本工営都市空間株式会社／中日本高速道路株式会社
（NEXCO 中日本）／清水総合開発株式会社／三協フロンテア
株式会社／鹿島建設株式会社／横浜市住宅供給公社／中央コン
サルタンツ株式会社

2024年11月25日（月）

京成電鉄株式会社／鹿島建物総合管理株式会社／一般財団法人
国土技術研究センター／ホクト・エンジニアリング株式会社／
清水建設株式会社／大和リース株式会社／八千代エンジニアリ
ング株式会社

2024年12月2日（月）

オリジナル設計株式会社／中日本エクシス株式会社／三井デザ
インテック株式会社／国際航業株式会社／株式会社フジタ／株
式会社 JR 東日本建築設計

2024年12月9日（月）

株式会社建設技術研究所／株式会社オオ／ヨシモトポール株式
会社／東京地下鉄株式会社（東京メトロ）／東電タウンブラン
ニング株式会社／独立行政法人都市再生機構（UR）

2024年12月16日（月）

東海旅客鉄道株式会社（JR 東海）／西武造園株式会社／株式
会社ティコク／株式会社 UR リンテージ／東電不動産株式会
社／日本振興株式会社

2024年12月23日（月）

大成有楽不動産株式会社／埼玉高速鉄道株式会社／戸田建設株
式会社／株式会社パスコ／大和ハウス工業株式会社／株式会社
日建設計／地方共同法人日本下水道事業団

2025年1月20日（月）

日軽エンジニアリング株式会社／日本工営株式会社／リテック
エンジニアリング株式会社／テンワス株式会社／株式会社千代
田コンサルタント／株式会社大京

1/8 水 博士論文及び学位申請論文発表会

秋元美咲（依田研究室）

「T字型つえ使用者の安全な歩道歩行に向けたつえの滑りやすさ
特性と歩きやすい路面の評価に関する研究」

2/14

金

卒業研究発表会審査会

4つのユニットに分かれ、1年間取り組んできた卒業研究の審査会が実施されました。それぞれのユニットにおいて、先生方からの質問に的確に答えなければいけません。1年間の研究を通して得た知見をもとに、みなさんはそれらに一所懸命応えようとする姿がうかがわれました。



2/19

水

修士論文最終審査会

氏名	発表題目
 青木 健 (阿部研究室)	太陽光発電設備に関わる景観マネジメント手法に関する研究 —静岡県内の取組みを事例として—
 石田 愛奈 (押田研究室)	わが国における犬同伴型ペットツーリズムの空間整備実態に関する研究 —長野県軽井沢町及び静岡県伊豆高原地域に着目して—
 小野寺 亮太 (岡田・田島・栗本研究室)	わが国の中山間地域における脱炭素循環型地域づくりに関する研究 —集積する複数製材所を対象としたエネルギー地産地消モデルの構築—

氏名	発表題目
 境野 哲美 (阿部研究室)	隅田川の防潮堤及びテラス護岸の景観整備に関する研究
 鈴木 彩加 (田中研究室)	東京都内のホール・劇場集積エリアの特性に関する研究
 鈴木 杏子 (阿部研究室)	社会貢献活動を通して見た社会インフラとしての寺院の役割に関する研究
 戸塚 夏萌 (後藤研究室)	地域特性を考慮した新しい水害対策手法の提案
 三浦 靖貴 (岡田・田島・栗本研究室)	自動車の車窓からみた海景の動的な景観特性と空間的特徴に関する研究 —千葉県房総半島を対象として—
 安田 有希 (押田研究室)	都立文化財庭園「六義園」にみる維持管理と活用実態の変容に関する研究

3/5

水

卒業発表・修了発表

学 部 卒 業 生：105名（2024年9月卒業3名含む）

大学院博士前期課程修了者：9名

大学院博士後期課程修了者：1名

なお、学位伝達式（卒業式）は3月25日（火）に日本武道館（卒業式）、ならびに駿河台キャンパス（学位伝達式）で行われます。

2024(令和6)年度 まちづくり工学科各賞受賞者

学部賞

■ 石井 麻翔(押田研究室)

優等賞

■ 青野 かれん(落合研究室)
■ 池田 優太(山崎研究室)
■ 嘉沼 匠洋(阿部研究室)

桜賞

■ 杉本 知優(落合研究室)
■ 高橋 芽依(岡田・田島・栗本研究室)

理工学部校友会まちづくり部会特別賞

■ 伊藤 優衣(牟田・八藤後研究室)
■ 大淵 裕太(岡田・田島・栗本研究室)
■ 後藤 佑綺(岡田・田島・栗本研究室)
■ 山本 礼(岡田・田島・栗本研究室)

最優秀賞(大学院)

■ 三浦 靖貴(岡田・田島・栗本研究室)：自動車の車窓からみた海景の動的な景観特性と空間的特徴に関する研究—千葉県房総半島を対象として—

最優秀賞(学部)

■ 伊藤 大翔(仲村研究室)：光学式モーションキャプチャを用いた静的および動的実験における構

造試験体の微小変位計測

優秀賞(学部)

■ 會田 龍一郎(阿部研究室)：城下町米沢における水路網の設計論理に関する研究
■ 青野 かれん(落合研究室)：地域活性化に寄与する集合住宅の活用のある方に関する研究—集合住宅の種類ごとにみるストック活用の現状と特徴—
■ 池田 優太(山崎研究室)：UR団地建替えにおける創出用地の空間活用と再編手法に関する研究
■ 上杉 桃子(仲村研究室)：道路橋耐震補強の進捗状況が地域住民の避難に及ぼす影響—埼玉県内の市町村が管理する小規模道路橋を対象として—
■ 川島 永匡(西山・天野研究室)：市町村合併にみる地域の祭り存続に関する基礎的研究—千葉県山武市の広報誌を対象として—
■ 源関 愛香(落合研究室)：取組主体からみた関東地方の「地域分散型図書館」の実態把握
■ 田中 裕樹(岡田・田島・栗本研究室)：わが国におけるグリーンインフラの立地特性に関する研究—自治体が関与するグリーンインフラ大賞52事例に着目して—
■ 吉川 柊(山崎研究室)：都市再生特別地区における広場・空地の設計コンセプトと空間特性に関する研究—イベントスペースの整備・運用に着目して—

桜まち賞

■ 伊藤 優衣(牟田・八藤後研究室)：ペット飼育者と非飼育者が共存する住宅地に関する研究—住宅地におけるペット飼育の現状と課題—
■ 尾川 瑠(落合研究室)：空き家の地域的活用におけるリスク管理のあり方に関する研究—定期借家および転賃借契約の特徴に着目して—
■ 河西 咲季(牟田・八藤後研究室)：児童の安全確保を目的とした登下校路の現状分析に関する研究—静岡県の公立小学校を対象として—
■ 杉本 知優(落合研究室)：わが国の「生活観光」の取組実態に関する研究—生活観光に取り組む9地域の取組主体と構成施設に着目して—
■ 平石 葵(高村研究室)：新たな内発的発展による持続可能な地域創生方策の研究—徳島県神山町を事例として—
■ 増田 稜太(落合研究室)：公民館からコミュニティセンター等類似施設への移行実態の把握—自治体ごとの移行パターンの分類を通して—
■ 眞野 匡生(仲村研究室)：オープンデータとフリーアプリケーションを活用した新旧地形と建物の3Dモデル作成とVR可視化システム構築に関する基礎的検討
■ 湯澤 泉実(後藤研究室)：東京湾の人工海浜における飛砂の現状と対策方法の提案

学会・協会等の受賞、テレビ放映や新聞・雑誌に掲載された記事、書籍の出版など、本学科の教職員・学生の活躍を紹介します。

[受賞]

■ 助教 田島洋輔

埼玉県・彩の国コミュニティ協議会「第56回
シラコバト賞」

対象：利根川を活用した環境まちづくり
活動

受賞年月日：2024年11月14日

■ 准教授 西山孝樹

令和6年度理工学部学術賞

対象：『徳川実紀』にみる一連の社会基
盤設備に関する研究

受賞年月日：2025年11月21日



■ 博士前期課程2年 安田有希

日本造園学会関東支部大会2024年度事例・研
究発表会「優秀研究賞（口頭発表部門）」

対象：無料開放が六義園の管理運営に及
ぼす影響に関する研究

受賞年月日：2024年11月9日



■ 4年 昼間駿一郎

日本造園学会関東支部大会2024年度事例・研
究発表会「優秀研究賞（口頭発表部門）」

対象：街区再編まちづくり制度における
再生方針と地区計画に関する研究

受賞年月日：2024年11月9日

■ 博士前期課程2年 三浦靖貴・同1年
落合はる菜・松島萌華

令和6年度 理工学部学会・協会賞

受賞年月日：2025年11月21日



■ 4年 杉本知優・青野かれん

日本建築学会関東支部第25回提案競技「美し
くまちをつくる、むらをつくる」建築・まちづ
くり提案の部「優秀賞」

対象：ハレケノマー開体する空き家、広
がる日常—

受賞年月日：2025年1月26日



[書籍]

■ 教授 阿部貴弘

書籍名：『土木遺産さんぽ—まち歩きで学ぶ江
戸・東京の歴史—』（単著）（理工図書）

発行年月日：2024年12月25日

書籍名：『グローバル時代の景観デザイン：ボ
ストコロナ、再生可能エネルギー、自然災害へ
のレジリエンス』（分担執筆「太陽光発電設備
と景観—静岡県—」）（鹿島出版会）

発行年月日：2025年1月20日

[雑誌等に掲載]

■ 教授 阿部貴弘

記事名：インフラツーリズムのその先へ

掲 載 誌：『月刊建設』Vol.68, No.11, pp.4-5
（全日本建設技術協会）

発行年月日：2024年11月1日

■ 特任教授 天野光一

記事名：[意見・提言] 建設業における定石
デザイン

掲 載 誌：『ACe 建設業界』2024年10月号
（日本建設業連合会）

発行年月日：2024年10月25日

[新聞]

■ 教授 阿部貴弘

記 事 名：データで読む地域再生「城ブーム
まちを元気に」（取材記事）

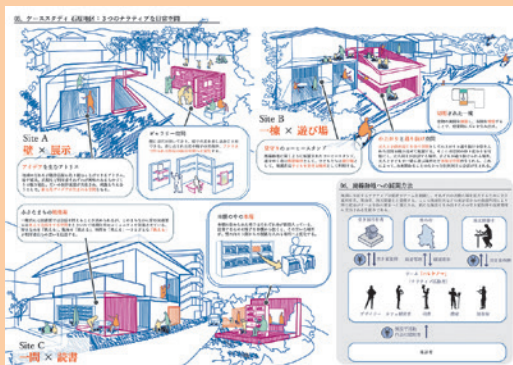
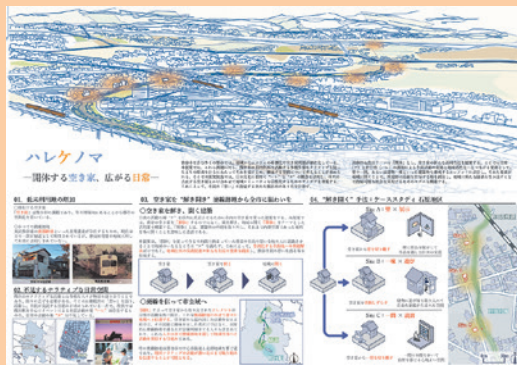
掲 載 誌：日本経済新聞（朝刊2面）

発行年月日：2025年2月22日

「教職員・学生の活躍」の情報は、随時編集
までお寄せください。なお、本年度の学会
等での発表は、次号（10月発行予定）にま
とめて掲載します。

ハレケノマ

—開体する空き家、広
がる日常—



【学会誌報告】

■ 教授 田中 賢

記事名：セミナー開催報告「イタリアの学校教育におけるフルインクルージョンの実際」ローマ在住 Francesco さんと語り合う、ひとりひとりの子どもの教育環境とは

掲 載 誌：『福祉のまちづくり研究』Vol.26, No.1, pp. 44-49（共著）（日本福祉のまちづくり学会）

発行年月日：2024年 6 月

記事名：セミナー開催報告「新たなモビリティサービス」は地域交通や福祉交通を豊かにできるのか

掲 載 誌：『福祉のまちづくり研究』Vol.26, No.2, pp.61-62（共著）（日本福祉のまちづくり学会）

発行年月日：2024年12月

【講演等】

■ 教授 阿部貴弘

中部地方都市美協議会総会研修「なぜ、景観に取組むのか？～質の高い公共空間にむけて～」

主 催：中部地方都市美協議会

開催年月日：2024年10月17日

■ 教授 岡田智秀

北戸田駅周辺のまちなかウォークアブルの意義

主 催：戸田市

開催年月日：2024年10月12日

大井川港開港60周年記念式典基調講演「大井川港の産業景観十景とこれからの“みなとまちづくり”の展望」

主 催：焼津市

開催年月日：2024年10月28日

新河岸川の流域景観づくり

主 催：新河岸川広域連絡会

開催年月日：2024年11月10日

千葉市・八千代市・佐倉市3市連携川まちづくりの体制案と意義

主 催：千葉うみさとライン協議会

開催年月日：2024年11月20日

地方小都市のウォーターフロント事例に学ぶ“みなとまちづくり”

主 催：焼津市

開催年月日：2024年12月 1 日

南摩の自然景観について学ぼう

主 催：鹿沼市立南摩中学校

開催年月日：2024年12月 5 日

近郊都市のまちづくり事例を通じてみた鹿沼中心市街地の展望

主 催：鹿沼市・UR 都市機構

開催年月日：2024年12月 9 日

焼津内港ウォーターフロントのまちづくり戦略

主 催：焼津市

開催年月日：2024年12月10日

地方都市における「みなとオアシス」の活性化方策について

主 催：国土交通省四国地方整備局

開催年月日：2024年12月19日

荒川区の暗渠景観と隅田川由来の景観資源の発掘法

主 催：荒川区

開催年月日：2025年 1 月25日

焼津内港地区の防潮堤の景観デザインの考え方

主 催：焼津市

開催年月日：2025年 2 月 3 日

まちづくりの観点からみた建築デザインの考え方

主 催：春日部工業高校建築科

開催年月日：2025年 2 月 6 日

北戸田駅周辺エリア・ウォークアブル社会実験の講評

主 催：戸田市

開催年月日：2025年 2 月 8 日

みんなで選ぼう「南摩の景観10選（2024）」

主 催：鹿沼市立南摩中学校

開催年月日：2025年 2 月20日

地域資源を活用した“みなとまちづくり”のこれからの戦略

主 催：徳島県美波町

開催年月日：2025年 3 月 3 日

五井駅東口周辺エリアのウォークアブル社会実験の評価と展望

主 催：市原市

開催年月日：2025年 3 月23日

■ 教授 田中 賢

アートと福祉のまちづくり特別研究委員会「博物館・美術館・動物園のアクセシブル対応（イタリア・スペイン・フランス・日本）」

報告（1）：イタリア・スペイン・フランスの博物館・美術館のアクセシブル対応についての報告（田中 賢）

報告（2）：日本の動物園でのアクセシブル対応についての報告（博士前期課程1年 大塚晴希）

主 催：日本福祉のまちづくり学会

開催年月日：2024年11月23日（オンライン）

■ 教授 仲村成貴

平成28年熊本地震および令和 6 年能登半島地震における応急復旧対応に関する調査

主 催：日本大学静岡県工科学会

開催年月日：2025年 1 月25日

■ 准教授 押田佳子

観光を科学する

主 催：相模女子大学高等部

開催年月日：2024年10月12日

■ 准教授 落合正行

セミナー「いなかの空き家活用・上手な活かし方」

主 催：株式会社リアルエステート

開催年月日：2024年11月 9 日

■ 助教 栗本賢一

職業人の話を聞け「まちづくりってなんだろう」

主 催：三鷹の森学園三鷹市立第三中学校

開催年月日：2024年 9 月21日

明治神宮一百年の杜が織りなす原宿・青山の都市景観

主 催：中国インターネット情報センター等

開催年月日：2024年12月 2 日

保護者アンケートにおける統計的一考察

主 催：三鷹の森学園コミュニティ・スクール委員会

開催年月日：2025年 1 月27日

■ 助教 田島洋輔

利根川観光活用ワークショップ・かわまちづくり勉強会～河川管理者の視点によるかわあそび～

主 催：国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所・任意団 thể利根川の魅力を育む会

開催年月日：2024年 9 月10日、10月 4 日、10月 30日、11月10日

再生可能エネルギーを中心とした循環型地域づくり～まちに眠る“負の資源”を逆手に取った地域再生～

主 催：佐野日本大学高等学校

開催年月日：2024年11月20日

自然環境復元学会・日本ビオトープ協会合同シンポジウム「ネイチャーポジティブによる地域創発～次世代のための自然再生と持続的な地域づくり～」

主 催：自然環境復元学会・日本ビオトープ協会

開催年月日：2025年 2 月21日

編集後記

今回の「まちの見方・楽しみ方」では、まちづくりの第一線で活躍されている非常勤講師の先生方、そして本学科の大学院生にもご寄稿いただきました（私自身も執筆者として寄稿しました）。こうした多様な立場・視点から語られる「まち」は、私たちが普段見落としがちなきざまな魅力にあふれていると改めて感じました。本シリーズはこれで第6回目。バックナンバー 1～5 回目は学科ホームページで公開しておりますので、まだご覧になっていない方はぜひお読みください。連続してご覧いただくことで、きっと、新たな「まち」の姿との出会いが待っているはず（栗本）